

第 569 回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 令和 8 年 5 月 20 日（水）午前 11 時より

2. 開催場所 長野放送本社会議室

3. 委員の出席 ○委員総数 8 名
○出席委員数 7 名
○出席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）

林 新一郎 委員長
井上 裕子 副委員長
新芝 正秀 委員
笹本 正治 委員
中谷 富美子 委員
中山 潔 委員
南澤 光弥 委員

○欠席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）
樋代 章平 委員

○放送事業者側出席者名

須垣 有司 （代表取締役社長）
早川 英治 （取締役 報道制作・デジタル推進担当）
小林 修 （取締役 編成業務・放送番組審議会担当）
伊藤 晴彦 （報道制作局長）
畠田 哲也 （編成業務局次長 兼 放送番組審議会事務局長）
手塚 かおり （編成業務局次長 兼 編成部長 兼 視聴者室長）
黒岩 祐治 （報道制作局制作部長 兼 デジタルメディア部長）

4. 議題

（1）番組審議

『NBS フォーカス∞信州 白馬を滑る 誇りの軌跡

～リーゼンスラローム 80 年の物語～』

（令和 8 年 3 月 27 日（金）午後 7 時～ 7 時 57 分放送）

(2) 視聴者対応報告（令和8年4月分）

(3) その他

5. 議事概要

(1) 番組審議

主な意見・感想

- ・老若男女やレベルを問わず楽しめる「日本一の草レース」に着目した企画自体は、白馬ならでは、信州ならではのもので評価できる。
- ・80年もの長きにわたり継続されてきたリーゼンスラローム大会の歴史に、驚きと敬意を持った。
- ・出場者それぞれの背景や完走後の姿から人間模様が垣間見え点良かった。
- ・ゲレンデの成り立ち、国際化、未来への展望といった番組構成の流れは興味深く、受け入れやすかった。
- ・ドローン映像を用いるなど、スキー場の雄大なスケールがよく表現されていた。
- ・大会の紹介では単に選手を並べるのではなく「劇団ささがわ」を軸に見せた構成は新鮮で面白かった。
- ・参加者と宿の人たちとの交流を通じて大会の舞台裏を表す構成は評価できる。
- ・いくつものエピソードが交錯している感じがあり、番組前半から集中することが難しかった。
- ・グリーンシーズンの描写においてPR色が強いシーンがあり、違和感があった。
- ・登場人物が多く、一度の視聴では人間関係や内容を整理しきれなかった。
- ・スキー場開発を呼びかけた福岡孝行氏が八方尾根を選んだ理由や、開拓にかけた情熱の源泉がやや分かりづらかった。
- ・スキー場開発の背景には、地域おこし・産業おこしの目的もあったのではないかと感じた。

- ・戦時下の1944年、先駆者の福岡孝行氏が兵役年齢だったにも関わらず家族を伴って疎開できた経緯や、困窮期にスキー場を開発した背景に疑問や違和感が残った。
- ・位置関係やスタート・ゴール地点がわかるように、山全体を俯瞰した地図など示すべきだった。
- ・国際化の波や温暖化、人手不足などの環境の変化に対し、スキー場を今後どう維持していくのかなどの課題にもっとフォーカスすべきだった。
- ・国際化による変化の中で、地元には十分なお金が落ちていないという課題も含め、「光と影」の両面を扱う余地があった。

(2) 視聴者対応報告（令和8年4月分）

資料に基づき、令和8年4月分の視聴者対応について、編成部より報告を行った。

(3) その他

配布資料

- ・第568回番組審議会（令和8年4月）議事録
- ・視聴者対応報告資料（令和8年4月分）
- ・モニターレポート

『NBSフォーカス∞信州 白馬を滑る 誇りの軌跡
～リーゼンスラローム80年の物語～』

- ・次回審議番組DVD

『NBSフォーカス∞信州 DJ KOOの軽井沢パンDO DANCE
～心おどる名店めぐり～』

（令和8年4月10日（金）午後7時～7時57分 放送）

- ・ 次回審議番組資料
- ・ BPO報告（NO. 288、289）
- ・ 民間放送ニューズレター（第2250号）

以上